

平成20年3月12日  
北海道厚生局健康福祉部  
指導・監査部門

## 札幌医科大学附属病院高度救命救急センターにおける 多剤耐性緑膿菌（MDRP）感染患者の発生について

### 1. 発生状況（札幌大調べ）

#### （1）期間

平成18年9月から平成19年12月までの16か月間

#### （2）感染者数

21名（うち死亡5名）

#### （3）死亡事由

- ・3名は、間質性肺炎、敗血症、末期ガンが死因であり、感染との因果関係は無い。
- ・2名は、抵抗力のない重篤な患者（重度脳挫傷、左肺挫傷等）であり、感染との因果関係の判断は困難である。

#### （4）感染認識

大学附属病院は、当時より院内感染の可能性について検討しており、調査の結果、その可能性は低いと認識していた。

### 2. 今後の予定

院内で検討の結果、既設の「院内感染防止委員会」の下に「MDRP感染症ワーキンググループ」を設置し、臨時の外部委員及び学内委員を委嘱し、今回のMDRP感染について、遺伝子検査を含めた調査、検証等を行うこととされている。

#### （1）外部委員

京都大学医学部附属病院副病院長 一山 智（座長）

大阪大学医学部附属病院感染制御部長 朝野 和典

#### （2）日程

ワーキンググループを開催（第1回は開催済）し、4月中旬を目途に結論を得て報告する。

### 3. 厚生局の対応

- ・平成20年2月 8日：札幌市保健所と共に聞き取り調査
- ・平成20年2月12日：厚生局にて大学附属病院より説明を受ける
- ・平成20年2月27日：札幌市保健所と共に聞き取り調査と現場確認